

仙台稲作情報2020（第2号）

宮城県仙台農業改良普及センター TEL：022-275-8410 FAX：022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail：sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

令和2年産水稻の播種作業がほぼ終了を迎えており、管内における播種盛期（進行率50%）は4月12日頃（前年より2日早い）となりました。一部で病害の発生が見られますが、苗は概ね順調な生育となっています。

来月には、田植え作業が始まり、今年産の稲作がいよいよ本格化します。「高品質宮城米づくり」の実現に向けて、以下の栽培管理のポイントを押さえ、良質米づくりをスタートさせましょう。

栽培管理のポイント

- ▷田植えは、植え痛みを防止するため、温暖無風日に行いましょう。
- ▷適正な水管理で、初期生育を確保しましょう。
- ▷雑草の葉齢を確認し、除草剤の散布が遅れないようにしましょう。

1 本田管理

移植栽培

（1）好条件での田植え

- ・温暖無風日に行います。強風下での田植えは植傷みや浮き苗が発生しやすくなりますので、風速4m/秒以上の日は避けましょう。
- ・やむを得ず悪条件下で田植えをする場合は、田植え後、苗の葉先が少し出る位の深水で苗を保護しましょう。

（2）田植え後の管理

①生育初期の水管理

- ・田植直後の苗は根からの吸水が少なく、茎葉からの蒸散が多いので、活着するまでは苗を保護するために葉先が2～3cm出る程度の深水とします。
- ・活着後は、水深2～3cmの浅水として、水温・地温の上昇を図り、初期生育量の確保（分けつの促進）に努めましょう。
- ・低温や晩霜の心配がある場合は、水深5～6cmの深水にします。

②除草剤の使い方

- ・多くの除草剤では使用時期の目安はノビエ葉齢になっています。雑草の葉齢を確認し、除草剤の散布が遅れないようにしましょう。
- ・代かきをていねいに行い、水田表面を均一にしましょう。田面が露出するとその部分の除草効果が低下します。
- ・除草剤散布後7日間は止め水とします。田面水が減少した場合は静かに補充し、継ぎ水を行います。
- ・同じ雑草が残るほ場では、同じ除草剤を連用せず、初期除草剤との体系処理を行いましょう。

③補植用残苗の処分

- ・補植用残苗は、6月になってもほ場に放置されている場合があります。いもち病の発生源となりますので、補植後は直ちに処分しましょう。

湛水直播栽培

(1) ほ場の均平

- ・ほ場の均平程度は、苗立ちや除草剤の効果、稲の生育、収量に大きく影響するので、均平化に努めましょう。高低差は10cm以内が目安となります。

(2) 出芽方法別の水管理と除草剤の使用

・湛水出芽（鉄コーティングなど）

播種時の初期除草剤の効果を保つため、播種後は速やかに入水し7日間湛水後（田面が露出しない場合は、途中からの補水はしないで自然落水させる）、浅水管理に努め、出芽・苗立ちを促進させます。稲の本葉1～1.5葉期に再入水し、初中期除草剤を施用し、初期除草剤と同様の水管理とします。

・落水出芽（べんがらモリブデンコーティングなど）

播種後1日は湛水し、その後、出芽するまで落水状態とします（亀裂が入るまで）。出芽確認後は浅水で入水させ出芽を促します。稲の本葉1葉期以降、水が落ち着くのを待って除草剤を散布します。

2 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（4/16仙台管区気象台発表）

予報のポイント

- 寒気の影響を受けやすいため、向こう1か月の気温は、平年並か低いでしょう。
- 期間の前半は気温がかなり低くなる見込みです。
- 低気圧や前線の影響を受けやすいため、東北日本海側の日照時間は平年並みか少ないでしょう。

低温傾向が見られますので、育苗管理においては温度管理にこまめに行い、病害の発生にも注意しましょう。

■農薬の適正使用について

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。

■令和2年春の農作業安全確認運動実施中（令和2年4月1日から令和2年6月30日まで）

運動スローガン 「見直そう！農業機械作業の安全対策」

近年、様々な農業機械の普及、農業従事者の高齢化等により、機械操作のミス、過信と慣れによる安易な作業が重大事故に結びつき、依然として農作業死亡事故が発生しています。

農作業死亡事故を減少させるため、安全対策を強化して一層の事故防止に取り組みましょう。